

## 第2回目黒区産業振興ビジョン改定懇話会

日時 平成30年10月2日（火） 午後6時30分～午後8時30分  
場所 目黒区総合庁舎1階 E会議室  
出席者 （委員）  
黒瀬会長、因幡委員、奥角委員、柏井委員、諏訪委員、柳本委員  
平江委員、佐々木委員、日比野委員、金阿彌委員、後藤委員、原島委員  
（区側・事務局）  
産業経済部長、産業経済・消費生活課長、他5人  
傍聴者 なし

配布資料 資料1：区内事業所等へのヒアリング結果について  
資料2：目黒区産業振興ビジョン骨子案

### 議事

#### 1 開会

#### 2 産業経済部長あいさつ

懇話会の開会に際して、産業経済部長より挨拶を行った。

#### 3 議事

##### (1) 区内事業所等へのヒアリング結果について

事務局より、資料1「区内事業所等へのヒアリング結果について」を用いてヒアリング結果の報告を行った。

会長 ヒアリングを通じて何か新しい動きをつかむことができたか。  
事務局 商店街について印象に残ったのは、テナントオーナーの関わり方である。主に、テナントオーナーになった方が商店街活動の中心を担っている印象があったが、商店街に残る人もいれば残らない人もいると聞いた。担い手が少なくなっている中、活動を盛り上げるためにもオーナーとテナント双方が関わるための仕組みがつけるとよい。また、ハード面を含めたまちづくりについて展望のある商店会長もいることが分かり、力強いと感じた。  
最近創業・出店した商業・サービス業の事業者は、出店理由として目黒ブランドに加え、交通アクセスや都心に比べて地価が安い観点を強調する事業者が多かった。目黒区は独身女性が多いことが人口構成の特徴だが、目黒ブランドだけでなく、働きながら住みやすく、また治安が良いことが理由だということが多かった。  
製造業者については、近隣に小ロット・短納期で部品を納入してくれる事業

者があることがメリットだということだった。また、目黒区に事業所があると、知名度の高さから人材確保にもメリットがあるようだ。なかには営業職を設けず、インターネット上で動画を配信してPRしている事業所もあった。区内に事業所を持つと、従業員の住まいを近距離に持つのが難しく、遠距離になりがちであるというデメリットも挙げられた。

委員 目黒に拠点を置く理由について説明があったが、アンケートの補完として行うと説明されていた観点からも、実際どのようなことを尋ねたのか。

事務局 「産業連合会及び紹介事業者」と「東京商工会議所目黒支所及び紹介事業者」に関しては、最近の景況と課題について伺っており、産業連合会には特に事業承継について話を聞いている。懇話会でも話題になっている新しい分野についてはマンションの一室などの小規模なスペースで事業が可能なことや守秘義務が厳しいために、把握するのは難しい印象だった。

「目黒区商店街連合会及び紹介商店会」については、同じく最近の景況や課題として、また、商店街の組織論的課題や後継者についての問題、また出店理由について伺った。区内の事業所は競争が激しく、半年以内に撤退してしまう事業者も少なくないということである。

「目黒区農業振興運営協議会及び紹介区内農業者」については、区内で農業を営む上での利点と課題について伺い、食への関心が低くない区民が多いことが自分たちにとって強みになるだろうということだった。

「産業能率大学」については、自由が丘商店街との連携や全国で地方創生の地域活動をしている中での課題や区内の他の商店街での取組の可能性などについて伺った。先ほどの話にもあったが、学生をボランティアとして活用するよりも、受け入れる事業者も教育的な観点で指導してもらうことによって、学生も積極的に活動をするようになり、双方にメリットができるのではということだった。

委員 自由が丘商店街と産業能率大学が協働している中で、学生に対して、学校は基本的なことを学ぶところだが、商店街は実社会に出た時にも困らないようにするために必要な礼儀なども含めて教えている。産業能率大学の学生は何年もイベントを企画に関わってくれているが、自由が丘商店街も商店主の高齢化が進んでいる中、若い学生の発想から学ぶこともある。今後もそのような関係は続けていきたい。

会長 産業能率大学の学生が区内に店を開いたということは聞かないか。

委員 そのようなことは聞かないが、産業能率大学の学生は企業から評価が高いと聞いている。

会長 前向きな動きがあるということである。

委員 計画策定に当たってヒアリングをしたことは重要だったと思う。ヒアリングによって目黒区内の事業者の取組や状況、ブランドの考え方やアクセス面での目黒区の強みが自分たちにとっても整理され、考えの裏付けができたと思

う。区役所の方もヒアリングに来てもらい、話す場を持ったことが重要であり、ビジョンに活かせると思う。

会長 ヒアリング項目ごとに得た情報をもっと整理すれば貴重な資料になるだろう。

事務局 次回の懇話会で資料提供させていただく。

委員 新しい産業の動向をつかみにくいという話があったが、クラウドファンディングのプロジェクトで目黒区が拠点になっている事業者を所在地で調査してもよいだろう。

会長 ヒアリング対象になった製造業者はいかにも都市型の製造業であり、今後に残ってほしいところだ。深刻な人手不足だが、目黒区に拠点があることが人材面で有意性があるということは明るいニュースであり、強みだと認識してよいと思う。また、商業・サービス業については区民の所得やアクセスについても目黒区の強みと考えてよいだろう。

## (2) 目黒区産業振興ビジョン骨子案について

事務局より、資料2「目黒区産業振興ビジョン骨子案」を用いて、ビジョンについて説明を行った。

会長 網羅的な内容だと思うが、今回のビジョンで目玉となるような施策はないのか。

事務局 それが一番難しいところである。目黒区の状況を考えると創業意欲を育てていくことや、地域に根差した事業所を応援していくことも大事なことである。目黒ブランドが議論になってきたが、それを定義できればとは考えているものの、表現し切れていない。

会長 近年 SDGs が注目されている。高所得で職業的な地位も高い人が住む地域であれば SDGs はマッチするように思う。これから SDGs を進めていくときに先頭を切って進めていける要素はあるのではないか。現行ビジョンの策定から8年経っているため、その間の社会的な変化を捉えていく必要がある。社会的な課題をビジネスにするという流れもあるため、先進的な取組をしていく地域として打ち出していけないか。

委員 目黒区は家賃が高いため創業しようとしても事務所や店を持つ際に負担が大きい。インキュベーションという話をされたが、骨子案ではインキュベーションについて触れられていない。目黒区のようなエリア的な魅力があれば、創業したいという人は多いだろう。区がハードを提供できるかどうかは別として、創業期の場所を区内に持つための支援を具体化していけないのだろうか。区有の空きストックを活用する考え方もあるだろう。目黒区で事業を立ち上げたい人はいるだろうから、それをやりやすくする取組があってもよいと思う。

- 委員 祐天寺駅が建て替えられ、東西が通じてまちはよくなっていると思う。しかし、駅ビルにチェーン店ばかりが入り、活性化もいいが祐天寺のイメージを大事にしてもらいたかったという思いもある。商店街だけでなく、住民とも話し合いをしながら開発ができなかったか。自分の住むまちの小売店が大事にされているべきではないかなと思うところもある。路線開発にあたっては鉄道会社と住民のあいだを区がつなぐようなことがあってもよいのではないか。
- 委員 金融機関の立場から起業・創業について感じることは、やりやすい仕組みがあれば長い期間、息長く取り組むことができるのではないかなと思う。
- 会長 金融機関でも起業・創業支援を積極的に取り組んでいるのか。
- 委員 日本全体で力を入れているため、どの金融機関でも取り組んでいる。
- 委員 商店街の安全・安心について書かれているが、区外から訪れる方の安全安心が弱いように思った。また、防災という観点でも、発災時に商店街を訪れている人がいかに守られるのかも大事ではないか。
- 委員 また、東京都との連携などの一つとして、雇用環境の整備などがあるが、助成制度について区が取組についても書いてもらえたら連携も強まるだろう。
- 委員 農業関係では体験農園を強調して記述されており、PR 効果として農業の重要性を知る良い機会になっていると思う。しかし農業の担い手がいないと都市農業はなくなってしまうため、儲かる農業を前提として施策を構築してもらいたい。体験農園では経営的に伸びていくケースは少ないようなので、経営力のある事業としていくことが必要なのだと思う。マルシェや学校給食への納入など、様々な取組事例があるので参考にさせていただき、収穫体験以外にも都市農業のよさをPRするために取組を考えてもらいたい。
- 会長 農業に関する施策について追記することはあるか。
- 委員 他の自治体の島で町おこしのために地域の特産物を活用したり、市場出荷までこぎつけたり、飛行機を利用して外部に出荷する取組を経験した。農業が他の業種の人たちとつながることによって農業も新しい展開をつくることができると実感している。目黒区には商業も学生も含め多様な人材がいるため、様々な切り口を持つことが面白い取組につながると考える。農協と連携したマルシェなどの取組も考えられる。
- 会長 たとえば6次化の可能性はあるのだろうか。
- 委員 飲食業などの事業者が多いので可能性はあると思うが、まずは農業者がやる気になることが必要だろう。
- 委員 ヒアリングの報告を聞くと、目黒区の強みはネームバリューであり、人手も集まる。また地価が比較的安いので創業・出店もしやすい。それを踏まえるとやはり創業に力を入れていくことは目玉になるのではないかな。創業支援は各地で取り組まれているが、目黒区は相当強みを持っているのではないかな。今後、高齢化が進むということであれば、高齢者のセカンドキャリアとして

の創業支援をしていくことも可能性があるのではないかと。目黒区の強みを活かせる施策だと思う。

委員

方針4と方針5については整理した方がよいのではないかと。産業振興の区民意識調査で観光についての項目が少なかったことが気になるが、まちの魅力創出についてはより注力をしてよいと思う。

目黒区だから従業員が集められるということは、相当な強みではないかと。23区でも都内だと認識されていない自治体があったり、通勤に不便なために退社した人がいるという話を聞くが、目黒区はそのようなことはないだろう。目黒区に働き、持続可能なまちで住み、地元で買い物をするような流れをつくれるとよい。学生にしても、卒業後すぐ目黒区に住むのは難しいだろうが、将来的に目黒区にもどってくるようなサイクルをつくれるとよいと思う。

委員

消費者の方たちと一緒に桶川の方で無農薬の米をつくっており、高価だが安全な食品のニーズは高いと考える。目黒区の強みは消費者であり、付加価値にお金を払う区民が多いことを前提とすれば、農業者の方とつなぐのは目黒区らしいのではないかと。

商店街の防災に関しては町会単位で地域の住区センターが担当している。ただ、発災時には日中いる店主は駆け付けることになっているので、住区センターと連携して取り組んでいるところである。

委員

商店街にいるお客さんも誘導するのか。

委員

そのようになる。まちにいる店主が動かざるを得ないところがある。

委員

骨子案の説明で気になったのは推進体制であり、庁内横断的な組織をつくるということが書かれている点がよいと思う。中目黒エリアでは、目黒川沿いの桜で大勢の人たちが押し寄せたが、個々に対応することは難しく、区が全体の音頭をとって警察や鉄道会社と連携して取り組んだ。そのような課題対応への連携だけでなく、前向きな取組のための連携も考えられるのではないかと。空き家対策と連携した産業振興なども考えられるのではないかと。

会長

目黒区には何らかのブランドがあるはずなので、それを形にして産業振興につなげてもらいたい。業種は問わないので目黒区ブランドを体現するビジネスが起こっていくことが、近隣自治体との差別化が図れるのではないかと。そのためには庁内ならびに庁外に至る横断的な体制が必要なだろう。目黒だからこそできる、そのような取組をぜひ考えてもらいたいと思う。

委員

産業能率大学の取組のように、東京工業大学でもこの地域ならではの事業を立ち上げている。ただ、東京工業大学としては大学内の技術を社会に出していきたいとは思っているが、研究者がビジネスとして立ち上げていく余裕はない。外部からその技術を活用してもらえれば、可能性も出てくるのではないかと。大学単位で産学連携となってしまうと大きな話になるため進まなくなってしまうが、研究室単位など小さなつながりのなかでシーズを社会に出していけるような仕組みをつくれるとよいと思う。そのようなことは協

- 力してみたいと思う。
- 委員 会長が SDGs に言及されていたが、SDGs のひとつの項目でも取り上げていくような視点は盛り込んでもらえるとういと思う。
- 会長 先進的な取組をしていくということが目黒区のイメージにあっていると思うので、ぜひ検討いただきたい。
- 事務局 具体的にビジョンに位置づけることは難しいかもしれないが、検討させてもらいたい。

#### 4 その他

次回の懇話会は 11 月中旬を予定している。

#### 5 閉会